

研修コース名 : 脱炭素化に向けた水素利用 (A)

コースリーダー : 俵洋一

研修期間 : 2026年9月23日～2026年10月22日

研修員 : 8名

参加国 : アルジェリア (1名)、エジプト (1名)、インドネシア (2名)、マレーシア (2名)、メキシコ (1名)、ベトナム (1名)

上記研修員は10月1日にTOTO (株) 小倉第一工場に伺い、CO₂排出削減に向けた水素利用に関する講義の受講並びに施設見学をさせていただきました。その際の様子を10月2日付けの読売新聞に掲載されたので、以下にご紹介させていただきます。

国際協力機構 (JICA) 九州 (北九州市八幡東区) はエジプトやマレーシアなど海外6か国の技術者や行政官ら8人を招き、脱炭素化に関する研修を行っている。1日にはTOTOの小倉工場 (小倉北区) を見学し、環境に配慮した取り組みを視察した。

同工場は今年1月、便器や洗面器などの製造工程で、二酸化炭素 (CO₂) を排出しない水素と従来の都市ガスによる焼成を始めた。体積比で水素を約20%混ぜることで、年間140トンのCO₂排出削減につなげるといふ。

工場を訪ねた参加者からは「水素混焼で従来の品質との違いが出ないか」「環境に優しい取り組みだが、製品が高くないか」といった質問が相次いだ。工場の担当者は「品質に問題

脱炭素へTOTO見学

JICA九州 6か国の技術者ら



小倉工場を見学する参加者ら

ないことは確認している」。「製品価格に水素の費用は反映していない」などと答えていた。

8人は9月下旬から約1か月の研修を受講予定という。JICA九州の担当者は「知見を持ち帰り、自国の水素利用促進に貢献してもらいたい」と期待した。